令和３年度第１回小美玉市総合教育会議議事録

１　日　　時　　令和３年１２月２４日（金）午後１時４０分～午後３時１０分

２　場　　所　　小美玉市役所　本庁２階　第２会議室

３　出 席 者　（市長及び教育委員会）
島田市長，羽鳥教育長，鶴町教育委員，山口教育委員，中村教育委員，
狩谷教育委員，柴田教育委員
（事務局）
市長公室長，教育部長，教育委員会理事，教育指導課長，副参事，指導主事，
教育企画課長，子ども課長，教育企画課補佐，秘書政策課長，秘書政策課補佐

４　会議次第　　〇あいさつ　・市長あいさつ
・教育長あいさつ
〇協議事項　（１）小美玉市教員教育研修に関する意見交換
（２）部活動（地域部活動）に関する意見交換
（３）小中一貫教育に関する意見交換

５　内　　容

〇司会（秘書政策課長：以降の表記は「司会」）

・それでは開始時刻、多少遅れました。大変申し訳ございません。ただいまより、令和3年度第1回目となります小美玉市総合教育会議を開催させていただきます。開会にあたり島田市長よりご挨拶をいただきます。

〇市長

・それでは改めてこんにちは。大変皆さんお忙しいところ、遅れまして誠に申し訳ございませんでした。お詫びを申し上げます。教育委員の皆さんには、年末のお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。また日頃より、子供たちの教育の充実、発展、健全育成のためにご尽力いただき、心から感謝を申し上げるところでございます。

・さて、新型コロナウイルスの感染者数でございますが、小美玉市内においては、ここ2ヶ月間、感染者数はゼロと落ち着いているところでございます。まだまだ予断を許さない状況でございますけれども、このような状況の中で、ワクチン接種を望まれる子どもたちには、滞りなく接種を実施し、安心して学校生活が送れるよう、鋭意努力をしているところでございます。

・また、コロナ禍における子育て世帯の支援でございますが、所得制限を設けずに、一括10万円、年内に現金給付として、現在取り組んでいるところでございます。教育委員会の担当の皆さんには大変ご苦労をおかけしておるところでございますが、未来を担う子どもたちに喜んでもらえるように、これまで進めて参りましたので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

・本日は、よりよい教育環境づくりに向けて、3つのテーマについて意見交換を進めていきたいと存じます。委員の皆様から忌憚のないご意見等々をいただきながら本日の会議を有意義なものとして参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

〇司会

・ありがとうございました。続きまして，羽鳥教育長よりご挨拶をお願いいたします。

〇教育長

・改めまして、皆さんこんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、島田市長はじめ、教育委員の皆様には、日頃より、本市教育並びに教育行政にたくさんのご指導、ご支援をいただいておりますこと、改めて感謝申し上げます。

・現在の社会情勢や教育改革の中にあって、教育の課題は本当にたくさんあります。本日の協議事項のこの3つも、現在、本市が抱える課題となっていますし、教育委員会としても、子どもを第一に考えながら、課題解決を図っていかなければならないと思っております。

・また、こうしたいろいろな課題であるとか問題には、学校の主体性や教員の主体性が問われていますし、我々教育委員会の関わり方も問われています。さらには、小中一貫教育にしても、部活動の問題にしても、地域と学校がいかに協働して取り組んでいくか。或いは、地域と学校が一体となった人づくりと、こういったものが課題としてありますし、そのあたり強く必要性も感じており、取り組んでいかなければならないと思っています。本日の会議で、皆様からいろいろなご意見やご提言をいただいたことを、我々、教育行政に反映していきたいと考えておりますので、今日は、この後の協議の方をよろしくお願いいたします。

○司会

・ありがとうございました。それでは、早速会議に移らせていただきますが、以降のご説明、それから委員のご発言につきましては、すべて着座にて行わせていただきます。また、ご発言の際は、マイクをご使用いただきまして、所属もしくはお名前を名乗ってご発言をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

・それでは改めて総合教育会議の趣旨についてご説明をいたします。総合教育会議は、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層、民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としております。この会議は、市長と教育委員会という、執行機関同士の協議の調整の場として、自由な意見交換として幅広く行うとともに、教育委員会の権限に属する事務につきまして市長の権限と調和を図ることとしてございます。

・それでは早速、次第の3、協議事項に入らせていただきますが、小美玉市総合教育会議運営要綱第9条に基づきまして、本日の議事録につきましては来年1月上旬頃を目安に、小美玉市ホームページにて公表されますので、あらかじめご了承をいただきますようお願いいたします。それでは議事進行につきましては、島田市長よろしくお願いいたします。

○市長

・はい。それでは本日の協議事項（1）でございますが、小美玉市教員教育研修に関する意見交換について進めて参ります。こちらをテーマとさせていただきました経緯でございますが、タカノフーズの高野会長から、教員の育成を目的とした寄附をいただきまして、教員教育研修基金を設置したところでございます。今年度初めて基金を活用した教員研修会を実施いたしましたが、その内容と成果について改めて、教育委員と共有したいと思います。まず、この研修会の概要とその結果について、教育指導課より説明をお願いいたします。

○教育指導課指導主事

・小美玉市教員教育研修についてご説明いたします。タカノフーズ高野会長の寄附金1,000万円により、教員教育研修基金を造成し、令和3年度に初めて研修会を実施しました。高野会長の、教員が高い志と理想のもとに、次の時代を担う子どもたちを正しく育成させて欲しいという意向を受けて、日本を代表する講師による講演会を開催し、総合的な教師力の向上をねらいとしております。今年度は獨協大学経済学部特任教授、また、コラムニストの深澤真紀氏に依頼し「イマドキ若者論、イマドキ日本論」という演題で、8月26日にオンラインでの講演を実施しました。オンラインでの講演は、感染症対策のためです。参加者は304名、経費は約50万円でした。

・講演では、若者の会社や仕事観、恋愛や結婚観、女性の活躍など、現代の日本の事例を取り上げながら、若者について批判するのではなく、信じることの大切さについて、わかり易くお話をいただきました。参加者からは、このような貴重な講演会の機会をいただいたことにありがたいという声が聞かれました。また、講演の内容を受けて、一人ひとりが多様な生き方を互いに尊重することの大切さについて考える機会となったことや、現代の社会問題への対応について、明るくお話しされる講師の先生から元気がもらえた、などという声が挙げられました。

・なお、講演会後には、各学校から感想やアンケートを取りまとめ、資料1にございます事業報告書を高野会長にお届けしております。また、次年度の講演会については、講師派遣会社と調整をしている段階です。教育だけでなく、法律や経営マネジメント、スポーツ指導者など、候補の方は多分野にわたっております。講演によって、教師が見聞を広げ、新たな視点や高いモチベーションを持って子どもたちと向き合っていけるよう検討しております。説明は以上です。

○市長

・はい。ただいま、所管課より説明がありました。私の所感としては、子どもたちの人格形成には、指導者から受ける影響は計り知れないものがあると思っています。教員の資質向上が、子どもたちにとって最も重要であると考えておるところでございます。高野会長の意向を踏襲しつつ、

この基金を大いに活用いただくとともに、先生方にとって本当に意味のある研修会にしていただくために、会長がテーマとしている人間学の学び、そして広い視野を持つ人材育成のためには、今後どのような視点で研修会を実施するべきなのか、委員の皆様が思う「教員の資質向上」に必要なことについて、ご意見やお考えをお伺いしたいと思います。

・先ほど講演が聞けて元気が出たというような、会員の皆さんの意見だということでございます。効果はあったと思いますが、どうぞ皆さんからご意見をいただきたいと思います。

○中村教育委員

・私の考えを述べさせていただきたいと思います。まず、教員研修でございますけれども、このように広く先生方に焦点をあて、特にやっていない人間学という関係での一方通行の研修というのもあると思うのですが、その他に現実にいろいろな問題点を考えた時に、それに対応するための研修もあると思います。高野さんは、実は私、茨城県の教員応援団で一緒でございまして、高野さんにはいろいろお話は聞いておりますが、必ずしも人間学という一方通行の講演だけを期待しているわけではないと聞いております。要は、先生の質が向上すること。こういうことをねらって高野さんは、今まで活動もしてきたと思います。

・そういうことから考えますと、まずはこの研修の問題は、何か学校としての目標なり達成目標なりがあって、初めて研修も実は出てくるのではないかと考えております。ですから、ちょっと義務教育学校の問題とリンクする部分もあるのですが、例えば、小美玉市の学校教育というのは、市の発展とか、発展に関してどういう貢献をしたらよいのかと。そういう大きなテーマがまずあり、その中で各学校がどういうことを目指すのか。そういう目標が出てくるのではないかと。そうしたら、その目標に向かって計画をして、何かを実施していくときに、現在満たされているもの、不足しているもの、そういうものが明確になってくると思うのですが、その不足しているものを強化する、そういう意味での研修が必要なのではないかと考えております。

・小美玉市の学校は、すべてが小中一貫校と義務教育学校に変わるわけですので、それぞれが、市の発展に貢献できるような、そういう意味での目標設定が必要なのではないかという、それは魅力あるものであって、なるほどと思われるような、目標をわかりやすく作る必要がある。例えば、学力。本校の学力は茨城県1位とか、本校は英語を話せる、生徒はすべて英会話ができるとか、本校の生徒はプログラミングが卒業時にはすべてできるようになるとか、そういう高い目標を作って、それに合わせていろいろな計画を進めるときに、どういう研修が必要になるかと考えれば、研修の本当の意味で必要なものが出てくるのではないかと考えております。個別の研修であっても、一向に私は教員のレベルアップに繋がるのであれば問題ないと思います。

○狩谷教育委員

・実際のところ、先生方の求める研修になっているのかどうなのかとのことで、市長の言われる「教員の資質向上」に必要なことというところに直結していくのかなと思います。今まで、これは茨城教員応援団で新任教務主任の研修をやった翌日に、小美玉市に来ていただいて講演会をやっていた。先生方が求めるものではなく、上から与えられた研修を聞いていたという感が否めなかったのかなと思います。感想やアンケートを求められ、先生方一人ひとりが記入はしますが、その中で批判めいたことを書く先生は多分、10人中1人いるかいないかと思います。多くの先生方は、講演や講師の講話に対して、評価するような内容で記載されていると思います。

・先生方がやっぱり求める研修でなければ、資質の向上にはならないと思いますし、意欲の向上にもならないのかなと思います。喉が乾いてないところに、いくら水を出されても飲もうとする人はいないと思うので、やっぱり喉の渇きがあって初めてその水を飲もうとすることに繋がると思うので、そういう研修を、これからやっていく必要性はあると私自身は思います。

○柴田教育委員

・先生方がどんなことを学びたいのか、それをまずは優先させて、聞いた上で研修の内容を決めていったほうがよいかと思います。

○山口教育委員

・お話を聞きまして、高野さんの寄附に対して講演会をしていくことに何か縛りがあると私はそのように思っていたので、中村委員の話を聞くと高野さんはそうではないと。ですから、講演会に限らず、先生自身が何を本当に勉強したいのかを、取捨選択して最大公約数で一つ選んで、1年に1回ですが、やる必要があるかと思います。今日のこのお話を聞くと、講演会に限らず、もっと自由なお金の使い方は正直あると思います。

○鶴町教育委員
・私は、教員教育講演会は本当に大事なことだと思います。今回の場合でも、この講師の先生のお話を、オンラインでお聞きしたという報告がありますけれども、できれば対面でコロナ禍でなければしていただきたいと考えております。
・こういう講演会を中心とした研修会は、一度切りの話を聞いても、なかなか自分自身の身に入らないのではないかと。いろいろな人の話を聞きながら、またその講演会や研修会の後に、どの教員も、どこの学校でも、ぜひこの講演会や研修会について、良い点、悪い点、反省会等を開いて、身になるようなものにしていただければと思います。
○羽鳥教育長
・先ほど、研修の目的という話がありましたけれども、これは先生方の指導力であるとか、専門性を高めることだと思います。「求める研修」と「与えられた研修」という話がありますが、その求める研修とは何なのかというと、先生方はやっぱり目の前の子どもをよくしたいと。そうすると、目の前の子どもの課題、つまり、学力向上であったり、生徒指導面であったり、また特別支援であったり、そういうものを求めて、実践的指導力を身につけて、子どもに対応したいと。その部分はもちろんあると思いますが、もう一つは、この高野会長の意向に沿うような研修というのも大事なのかなと私自身は思います。
・自分の経験上なのですが、教員の資質とは何なのか、高める資質とは何なのかと考えたときに、私の先輩から教わった言葉で「ＶＳＯＰ」という言葉があります。「Ｖ」はバイタリティで情熱、「Ｓ」はスペシャリティで専門性。「Ｏ」はオリジナリティで独自性、「Ｐ」はパーソナリティで人間性です。どれも大事ですが、私は経験上、特に「パーソナリティ、人間性」とか「人間力」という部分が、大事だなと思ってやってきました。ここにも視点を当てて、高野会長の意向にもあるように、教員の人間性を高める、つまり、人間とは何かとか、人間はいかに生きるべきかと。また、人間力を磨くことで、総合的に教師力が上がるとか、そういう磨く場、これがまた会長の言う、研修会、講演会かと思うのですが、そういった場を設定して、ベースとなる部分をしっかり固めたうえで、それを学校教育にあてていくというようなものなので、こちらの必要性も私自身は強く感じており、この講演会は何回も受けていますけれども、やってよかった、聞いてよかったなという思いは持っています。
○市長
・はい。ありがとうございました。研修会のよかったことについて、皆さんから様々なご意見があったということでございます。本日、皆さんからいただいたご意見を、来年度の研修に反映できるように、目的や計画をもって、先生方が求める研修を目指していくという考えのもとに、検証することは大事だということでございますので、そういう研修会になるよう、事務局にはぜひ検討いただきたいと思います。
・また、高野会長には、事務局から「このようなテーマで学びたい」とか「このような話を聞いてみたい」とか、積極的な提案により会長のご理解をいただくように、よろしくお願いします。
・会長も「人間学」ということで、先ほども申し上げましたけれども、会長の意向を理解し、さらに小美玉市の教育が発展していくためには、本当に素晴らしい教師として成長していただけるような環境になることが求められていると思いますので、今後もよろしくお願いしたいと思います。
・次に、協議事項の2でございますが、地域部活動に関する意見交換についてでございます。先日の議会にて、外部指導者に関する一般質問がございました。市といたしましては、地域部活動への移行によりまして、専門的な知識や技能、指導力を持った保護者や、地域の方々の協力を求めて連携を図ると答弁したところでございます。
・また、先月の水戸市の総合教育会議では、今年度、モデル事業として実施をしている地域部活動の状況について議論した結果、生徒や保護者の80％は満足しているものの、様々な課題があるということでございます。まず、国や県の方針の概要を共有しながら、また、これまでの市としてどのような取組を行い、来年度以降はどのような対応をしていくのか、教育指導課より説明をお願いします。
○教育指導課指導主事
・それではお手元の資料2－1をご覧ください。文科省等から、令和2年9月に「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」が公表されました。資料はその概要となっております。

・部活動は、生徒の多様な学びの場として大きな意義がある一方で、これまでは教師による献身的な勤務のもとで成り立ってきました。そこで、持続可能な部活動と、教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要とされております。改革の方向性で中段にあるように、部活動改革の第一歩として、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築することを目指すとしています。令和5年度以降、段階的に学校教育から切り離し、地域のスポーツ活動へ移行することと示されています。
・次のページ、資料2－2は文科省が示したスケジュールとなっております。これら国の方針を受けて県では、今年11月に地域部活動移行に向けての手引きを示しました。その中で、休日の部活動を令和10年度末には、県内のすべての中学校において、地域部活動に移行していくことを目標として掲げました。
・1枚飛びますが、資料2－4は県が示した部活動改革プランです。現在の市の取組について説明いたします。まず、部活動数適正化についてです。現在ご覧になっている資料に、部活動改革プランにある対応策として挙げられている、②部活動数適正化になりますが、こちらの方を本市では進めております。
・具体的な資料に関しましては、1ページ戻ります。資料2－3になっております。資料2－3の3、部活動数の削減の目安等について、こちらを参考に適正化を進めているところでございます。今年度は、小川北中学校において、現在の中学3年生の引退とともに、バスケットボール部、剣道部を廃部としました。また、美野里中では、水泳部、新体操部、コンピュータ部で、令和4年度より、新入部員の募集を停止し、令和5年度に廃部する方向で調整しております。
・次に、地域部活動検討委員会についてです。地域部活動検討委員会を、教育指導課、スポーツ推進課、小美玉スポーツクラブで組織し、地域移行に向けて検討を重ねております。今年度、実践研究が行われている水戸市やつくば市の取り組み状況等を共有し、本市の実態に合った移行パターンを模索しております。課題としまして、指導者の確保、費用負担のあり方、事務局の運営や地域の実態に応じた体制づくり等が挙げられます。本市において速やかな地域移行が実現できるように、令和4年度からは、地域部活動検討委員会に学校の代表者を含め、組織を拡充する予定でございます。詳細な実態調査等を行い、生徒のニーズを把握し、令和5年度からの段階的な地域移行を目指していきたいと考えております。以上です。

〇市長

・はい、ありがとうございます。ただいま、所管課より説明がございました。私としては、スポーツ団体や民間団体の指導に切り換えていくためには、保護者による子どもへの「導き」が今後重要になると思うところでございます。教員の働き方改革も重要でございますが、まずは子どもたちの成長を重視していただいて、どのような教育環境を整えていくのかを第一に考えて、これまでの部活動に対する考え方を変えていくためにも、保護者へわかりやすく説明をし、周知していく必要があると考えているところでございます。
・外部指導者の人材確保や資質、また指導者への報酬の支払いによって保護者の負担が増すこと。さらに、外部指導者は勝利至上主義に陥りやすいというような、様々な課題がある中で、市として、地域部活動への移行を進めていくために、委員の地域部活動への移行について、率直なご意見やお考え方をお伺いしたいと思いますので、ご発言をよろしくお願いしたいと思います。

〇鶴町教育委員

・地域部活動はもっと先のことになると思っていましたが、部活動そのものは子どもたちにとって大変、自分の身になり、友達関係などいろいろな問題として必要ではないのか、それが今進められていることだと思います。ただ、地域部活動に移行するためには、やはり指導者。どういう民間の指導者の人が必要で、どのような種目について指導をしていくのか、そういうこともよく見ていかなければならないと思っております。
・教育委員会として関係しているのは、各地域におけるスポーツ少年団、そういった団体で子どもたちを本当に献身的に指導している団体を、私の周りでもよく見かけます。そういう人たちはもちろんのこと、地域の部活動に兼ね合いを持ってもらえると思いますが、なかなか人材を発掘するのは難しいと思います。これも今市長が言うように、経費の問題。或いはそういったボランティアで行うための必要経費、そういったものも十分に用意しながら、この地域部活動に入っていかなければならない。今の部活動を地域に出すということは大変難しいことだと思います。

・できないばかりでは先に進まないので、何かの方法、本当に考えを出して、地域部活動の発展に繋がればいいなというふうに思っております。

〇山口教育委員

・お話を聞くと、チームが成り立たない、人数がいないので廃部が続いているわけで、子どもの数がどんどん少なくなっているわけですから、ますます廃部が進むのかなと思います。そのような中で、子どもたちの部活やスポーツへの取組をどうするのかを考えたときに、今年の夏の甲子園に玉里出身で鹿島学園から出場した選手がいました。中学校の部活には入らず、どこかのチームに行っていたようで、より専門的になればなるほど、学校の部活から離れていくのが現実であります。我々の時代は強制的に部活に入っていたものだったので、今は自由ですから、それはそれでよいかもしれませんが、学校の部活というのは、私自身も中学校の時に野球をやっていまして、当時の仲間とは今でもおつき合いをしていますし、仲良くしています。そういった心と心、その人間の繋がりそのものを部活の中で養われていくのかなと思います。

・そういう繋がりが大事なので、できれば学校でできることがあれば先生方だけではもちろん無理なのはわかっていますので、確かに地域からということですが、果たして地域にどれだけの指導者がいるのか、厳密に考えたときに見合う人がいるのか、非常に難しい問題で一概にこうだとは言えませんけれども、ただ、ぜひ、ここで言うのは心苦しいですけれども、市内中学校での問題もありますので、非常にその教育を離れると確かに勝負にこだわりすぎるということにもなると思いますし、かといって勝負にこだわらないのも正直どうなのかなと。勝負事である以上は負けるよりは勝った方がよいのであって、そのあたりのバランスというか、そういうものを取れる人が、指導者としてよいのかなと思います。

〇柴田教育委員

・一つの学校で持っている部活として、人数がどんどん少なくなり、単独校でその部を持ちきれないとなると、やりたい種目がないから越境してくるということも多くあるので、広い地域でそういった子どもたちのニーズを掬う上でも、地域での部活動というのは今後必要になってくると思います。その時に、学校から離れ、離れた組織でやるということになると、ちょっと学校とは別の活動になってくると感じますし、費用面で保護者の負担が大きくなるといところもあるかと思いますが、費用だけではなく、送迎とか、そういった面での負担というのも、保護者に十分理解していただかないと、地域での部活動はうまく進んでいくかどうか、その辺も課題になってくると思います。地域でやった方がよい部活動、そのまま学校の方に残していけるような部活と、分かれてくるのかなと思っています。

〇狩谷教育委員

・これは一番難しい課題だと思います。もう期限が切られてしまっていて、令和4年度からとなると、もう来年じゃないですかと。市長のお考えに賛同するのは、非常におこがましいのですが、教員の働き方改革が大前提ではなく、子どもたちを第一に考えるというのは、非常にこの考え方に感銘いたしまして、確かに部活動が負担だと感じている教員もいるのは事実です。一方で、この部活動をやりがいに感じている教員がいるのも事実です。

・教育現場から考えたときに、あの先生は部活動に関わってくれるから非常に熱心なよい先生だという評価と、部活動には後ろ向きだからクエスチョンマークがついている先生との二極に分かれた時に、非常に教育活動の一環なのか、わからないけれども、それ以外の部分で評価されてしまうという懸念もあるという感じがあります。このままでよいのか、時間が来れば当然、地域部活動へ移行していくのかなと思います。

・人材確保の問題であったり、費用の問題であったり、やりがいを持っている教員がどう関わってくるのか、地域部活動に誰がイニシアチブを取って指導するのか、教員なのか、地域の保護者なのか。そういうところが非常に考えれば考えるほど課題が山積しており、解決策がないというのが現状だと思います。期限がありもう始まってしまったら、そこにおっつけていくような体制をとっていく必要性があるのかなと。その時に費用的な部分で、予算が必要だった場合には行政の方でお願いしていくような体制がとられていく必要性があると感じながら、非常に明確なお答えが出せなくて申し訳ないのですが、難しい課題だなと実感しました。

○中村教育委員
・これは先生方の時間を減らしたい、一方で指導者の質の問題であるとか、報酬の問題を考えると、結果的にしわ寄せは生徒に行くことになると思います。非常に難しい問題で、私が今の段階で思うのは、コミュニティ・スクール、それぞれ学校で設置しますから、そこと部活動の問題について、学校側と徹底的に話し合いをして、役割分担をそこで考えられたらどうかと思います。
・そうすれば、具体的にはいろいろな問題が出てくるでしょうけれども、コミュニティと学校が一つの部活という問題について、役割をどう分担するかということを考えることが大事じゃないかというふうに思います。
○羽鳥教育長
・私も学校現場にいたので、狩谷委員と一緒ですが、もう国と県の方で方針が示され、令和5年度からスタートしなさいということで、推進するにあたっての課題、先ほど皆さんからあったように、受け皿の問題であるとか、指導者の確保の問題であるとか、あと費用負担の問題、それから送迎の問題と、いろいろこう出てくると思います。でもこれは実際にやらなければならないとなったとき、まず、メリット・デメリットで考えると、子どもや保護者が、地域部活動にそのメリットを感じるかどうか、ここが一つのポイントなのかなと思っています。
・メリットを感じてもらわないと、あるいはメリットを感じさせないと、この地域部活動への移行がスムーズにいかないし、活動も充実しないと思います。そのメリットはいろいろあると思いますが、例えば子どものメリットとして考えた場合に、学校では人数が不足して部活ができないと、それが地域部活動ではできるとか。専門性の高い指導が受けられるとか、こういったものもメリットの一つではないかと思いますし、そういったものを行政の方で発信して理解を得なければ難しいのかなというのが一つ。
・もう一つは、今度はデメリットの方ですが、このいくつかあるデメリットを解消していくという努力です。勝利至上主義という話もありましたが、病院に行くと小・中学生のけが、疲労による治療を受ける生徒がたくさんいます。医者の方から休みなさいと言っても、大会があるから休むとレギュラーから外されるから、いろいろあってどうしても休日でも長い時間、練習をするという状況もあるし、これは指導者の問題だと思いますけれども、やっぱりこう勝利に夢中になると、勝利優先でいくとなるといろいろな弊害も出てくるのかなと思っています。
・また、暴言や怒号、あるいは罵声などが起こり得る可能性が高いのかなと。その辺りは、やはり平日に行っている教員と、休日に行う地域指導員との連携というのが本当に大事になってくると思います。この連携をしっかりやらないと、例えば子どものいろいろな性格であるとか、特徴であるとか、運動能力であるとか、そこをしっかり押さえないとその高いレベルを指導した場合は、子どもが混乱してしまい、あるいは強い言葉を投げかけると萎縮してしまうなど、いろいろ問題が出てくるので、このあたりの連携をしなければならない。しっかりやり、やった上での地域移行かなという感じはします。課題がたくさんあるので、その辺りを整理しながら取り組んでいきたいと思っています。
○市長
・はい。ありがとうございました。外部指導員の指導を受けるとなると、やはり先生と指導者の連携が重要だというお話がございました。地域部活動への移行については、メリット、デメリットをきちんと整理をしていくことも重要であり、また、外部指導者への報酬、費用でございますが、しっかりとお支払いをしなければ責任を持って指導をしてもらうことができないだろうと、そういうことが重要であるというお話もあり、また、保護者負担が基本ではありますが、行政の方でも負担を考えたらというような意見もあり、その辺もしっかり、教育委員会と我々しっかり話を詰めていく必要性があると感じたところでございます。
・また、この役割分担なども学校と地域で必要だと思ったところでございます。部活動が少なくなっていく中で、また子どもたちが少なくなっていく中で、学校教育と部活動の関係、先ほど「心と心の重要性」というお話もあったわけでありますので、先生方と子どもたち、そして外部指導者と子どもの部活の大切なところをきちんと整理をしながら、よりよい子どもたちの成長に合わせた部活動が大事かと思います。
・それぞれ課題があるようでございますので、その課題を整理して進めていくのが重要だろうという意見もありましたので、担当として、それぞれ整理をしていただいて、よりよい今後の部活動へと進めていただければ大変ありがたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

・次に、協議事項の3でございますが、小中一貫教育に関する意見交換についてでございます。昨年も同様のテーマで、4つの中学校区、教育機会の均衡を図るためにも、目に見える形で、具体的な施策について意見交換を行いました。
・委員のご意見としては、市として推進計画を図るコーディネーターの必要性、校長先生が変わっても方針が変わらないように、教育委員会がイニシアチブをとること。また、目に見える特色ある小中一貫教育の具体策などの意見があったかと思います。
・それから1年が経過し、玉里学園義務教育学校での課題が見えてきたかと思います。令和3年のこれまでの各地区の取組状況や課題について、皆様と協議をしながら、来春には小川北義務教育学校が開校いたしますので、さらなる独自の取組についてご意見をお伺いしたいと思います。まずは小中一貫教育の各地区の取組状況や課題について、教育指導課より説明をいただきます。
〇教育指導課副参事
・本市では、平成30年度より10年間を実施期間として、小美玉市教育振興基本計画を策定しております。その中でも、市内全小中義務教育学校で小中一貫教育を推進することを基本的な考え方としており、各学校、地域の特色を生かして、知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成を基本方針として掲げております。
・本年2月、小美玉市小中一貫教育基本方針の中身についてもう一度見直しを行いまして、小中一貫教育推進委員会設置要綱を策定いたしました。同年3月には、第1回小中一貫推進委員会を開催いたしました。この会議の中では、中学校区ごとに、児童生徒の実態、保護者、地域のニーズなどをもとに、育成を図りたい児童生徒像について共通理解を図りました。
・令和3年度からは、そちらの計画をもとに、中学校区ごとに取組を進めることとし、今年度は3回、小中一貫市教育推進委員会の開催を計画いたしまして、現在第2回までを実施したところであります。令和3年度玉里学園義務教育学校が開校しまして、来年度、令和4年度には小川北義務教育学校が開校する予定です。現北中学校区がより一層、小中一貫教育の推進が図りやすくなることが考えられます。
・また、令和4年度からは、市内全小中義務教育学校で、コミュニティ・スクールを設置いたします。学校運営や、その運営に必要な支援に関する協議などが全学校で行われるようになり、この仕組みを活用することで、小中一貫教育カリキュラムの一つになる学校や地域の特性を生かした学習にも取り組みやすくなると考えております。来年度、小中一貫推進委員会の方に、茨城キリスト教大学の教授を講師としてお迎えして、専門家としての意見を取り入れながら、なお一層、小中一貫教育推進の充実を図っていこうと考えております。
・資料3の方に、令和3年度、現段階までの各地区中学校地区の取組について載せさせていただいておりますので、そちらの方をご覧ください。まず、玉里学園義務教育学校ですが、今年度より、義務教育学校開校ということで、そのような取組の事例、そして成果、課題として挙げられています。残念なことに今年度コロナ禍ということもありまして、考えていたことがそれぞれの学校、全てできたかというと、そうでもないところがありますけれども、学園としましては、やはり9年間を見通して子どもたちを見られるということについては大変意義があるのではないかという意見が先生方から挙げられています。また逆に、今年度、実際始まってみて授業時間の関係や、前期課程と後期課程の職員の行き来などについては、やはり課題が残っているようです。
・続いて小川南中学校についての事例ですが、小川南中学校については、小学校・中学校が、場所としては離れていますが、1小1中ということで、夏休み等には、それぞれの先生方の会議等を合同で開くなどという取組がなされております。それから、小学校と中学校で教員が行き来して美術の授業を行うなども実際行われました。
・美野里中学校につきましては、1中学校に対し4小学校ということで、小中一貫を図るためには難しい学区ではありますけれども、今年度は3回、取組をしていただきまして、1回目は夏休みで12月に第2回目の推進協議会を行っていただいております。3学期にももう一度実施していただくということで、行われております。部会を設置して進めていただいている状態です。
・最後に小川北学区ですけれども、こちらは来年度より義務教育学校が開校するということで、そちらに向けての取組を進めているという状態であります。以上でございます。

○市長

・ただいま、説明がございました。この取組を進める上で重要なことは、一人ひとりの教員自らの意識を変えなくてはいけないと私は思います。これまで行ってきたことを繰り返し行っていくのではなくて、抜本的に意識を変えて徹底して義務教育学校を生かし、小中一貫教育のメリットを最大限に生かして欲しいなと考えております。それぞれ進めているようでございますが、確かに難しいところはあるのかなと思いますが、小中一貫教育を他の市町村で進めてきた経験のある先生がいるかと思います。その経験に基づいて、実際に体験した中で、メリット・デメリットを検証していただいて、実践していただきたいなと思うところでございます。経験を生かしていただきたいと重ねてお願いします。

・それぞれの地区に課題がある中でございますが、さらなる市独自の取組について、委員の皆様が考える「特色ある小中一貫教育」について改めて意見をお伺いします。いかがでしょうか。特色あるということは、もう本当にいつもお話をしておりますが、本当にこのよくできた小中一貫校ということで、玉里学園もスタートしたところです。そして1年間やって課題があるというお話でございますが、その課題を整理しながら、さらに特色ある小中一貫について改めて皆さんの意見を聞きたいなと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

○狩谷教育委員

・実際のところ、「中1ギャップ」の解消を目指すのか、それを通しながら今度は学力向上を目指すのかというところに、どこに着眼点を置いて、小中連携、一貫教育を推進していくのかということが、はっきりしてないのかなというのが私の印象です。まずは、この「中1ギャップ」の解消なのかなと。そして、学力の向上へと徐々に繋いでいくのかなと私は考えているのですが、それぞれ学校の形状が違うので、なかなか難しい部分があると思います。

・そうであるならば、「学校生活のスタイル」「学びのスタイル」これが小美玉市の取組というものをある程度作ってしまっていいのではないかと思います。多少、美野里、小川、玉里地区で若干の違いがあってもよいとは思いますが、地域の実態に合わせ、基本ベースの生活スタイル、学習スタイルという小美玉バージョンも、ある程度確立していく必要性があると思います。おそらく、文科省で進めているような小学5年生からの教科担任制については、できたら市長のお計らいで、10名の市採用教員がいますので、先生方を、定数の多い学級というよりも、自分の学校では「こういう教育活動をするから、これだけの人間が必要だ」というところを学校に要望されたらどうでしょうか。そのことによって、教科担任制がもっと充実していくと思います。

・今、玉里地区は「4・3・2」でやっていますが、例えば「3」のところから小学5・6年生のところから、「モジュール」を使って50分授業というのを少しずつ展開していってもよいのではないかと思います。例えば、教育効果が上がる体育であったり、図工であったり、こういうところを50分に。当然、準備や後片付けを入れると、小学校の45分というのは、前後5分ぐらいはもう取られてしまい、正味、活動時間30分から35分じゃないかと思います。これを5分延ばせば、かなりの部分で違いが出てくると思います。こういうことも1つの取組だと思います。

・さらに、小川南中学校でやっているコミュニティ・スクールの委員は、どちらも同じ委員にしていますね。そうなると、保護者の乗り入れができるかなと思います。自分の小学校、中学校だけではなくて、例えばこれからボランティア活動や何かをお願いする際に、小中相互に乗り入れていくことによって、自分の子供たちが、将来的に小川南中に入学していくとなったときに、南中の姿も見えてくるのかなと。決して、住民が、今小学校にいるから南中に奉仕することがマイナスではないプラスに転じていくのではないかと思います。

・また、玉里学園の課題を見ると、小学校の担任が、結局給食指導に5分間違うので遅れてしまったという反省点が載っていましたが、逆に言うと、それって学級が1単位だからこそ、課題であって学校全体がひとつの教師のグループとして、全員が担任なのだという意識が、先生方の中に不足しているのではないかと思います。そこにいないのはもう明白なことですよね。だったら、他に先生がたくさんいると思います。全員が給食指導をするべきです。担任だから給食指導するのではなくて、担任を持っていない先生方も給食指導をする、全員で関わっていく。清掃もそうです。いろいろな部分の活動も、そのあたりは担任だけではなくて、全員が関わっていくというシステムを、やっぱり、小美玉市のなかで構築していく必要性があるのではないでしょうか。そのことによって少しずつ変わっていってほしいです。

・どうしても、距離的なものや、45分、50分の授業あたり乗り入れの授業というのは、なかなか難しい部分が出てくると思います。そこも授業効果や何かで補うことによって、小学生6年生から中学校への50分授業へ。また、教科によって担任の先生が変わるなど、そういうシステム的なものが徐々に身についていくのではないかなと私自身は思います。
・最後に、小川南小を見た時に、パソコンのスキルを1つの表にしてありました。何ができる、何ができないという、昔、小美玉市も「学習カルテ」を使っていたのですが、ちょっと使いづらさがあって、徐々になくなってしまったのですが、簡単なものを作って、ある程度、知識、技能的なものをチェックできれば、ある程度それも学力向上の一つとして、評価基準の一つになってくるのではないかと思います。難しくすると使えなくなってしまいますので、簡単に子どもたちが自己評価できるようなものがあることによって、ある程度一定のレベルが確保できるのではないかと私は思います。いろいろ話をしてしまいました。よろしくお願いいたします。

○中村教育委員

・先ほどちょっと触れましたけれども、学校のいろいろな計画、方針等を見ていても、私から見ると不足しているのは、明確に具体的な目標になっていないと。なぜかというと、数字が入ってないから。だから、やってもやらなくても結果がどうだったかということに繋がらない。それが一番の私は問題ではないかと思います。ですから、義務教育学校なり小中一貫は、小美玉全部が対象になるわけ。そうすると、先ほども言いましたように、英語が全員話せるとか、学力が茨城県ナンバーワンとか、どの学校もそれを目指すということは難しいですから、例えば、英語は玉里だとか、学力は何とかが小川北とか南だとか、そういうようにテーマをはっきりさせて、一番とか全員とかということがはっきりすれば目標として、その間、9年間をかけてどのような計画を立てるかというのは、これはね、継続してそのものが明確になってくる。それがないから進まない。改革が、改革に繋がらない。
・ですから、申し上げたいことの一番は、数字を入れた計画を作る。そうすれば、例えば英語の場合でも、万遍なくＡＬＴを各学校に配置をする。それよりも、玉里は英語に力を入れようとしたら、それに沿った形でＡＬＴは玉里に重点的に配置をすると。学力の問題、もしくは、不登校生徒をゼロにするという、そういう目標を例えばそこに重点的に、それに関わる支援員を配置すると、そういうものが出てくるのに、今のところ見ていると、満遍なく平均的にやっている。だから特徴がない。特徴をつけるということは、小美玉市を知ってくれるということです。
・そうすれば「英語で全員が話せることを目指すんだ」といえば、地域の方も学校の教育に関心を持つ。子どもたちも多分、そういう目標に向かって頑張ろうという気になる、先生方も意識を変えてやろうと。そうなって、必ずよい方向に繋がっていくと思います。ですから、突き詰めて言いたいことは、数字を伴った目標を決めることが大事だということです。

○鶴町教育委員

・専門的なお話はできませんが、先ほど狩谷先生がおっしゃった「中1ギャップ」については、前にこの学校統合の地域懇談会を小川、玉里の各小学校区でやりまして、そのときに、保護者に説明したのは、やっぱり「中1ギャップ」を直すのには、1年生から9年生までの学校を作っていくんだというようなことで、各地域でお話した経過があると思います。果たして、その経過どおりに「中1ギャップ」は、今、玉里学園義務教育学校は開校して始まっていますけれども、その後についてはどうなのか、今の段階として「中1ギャップ」というものは解消されているのかどうか、その辺なんかも検証していらっしゃるのかなと思います。
・次に小川北が、義務教育学校に移行していくわけですが、これもやはり「中1ギャップ」、これを一つの問題として捉えてそれができるかできないか、その辺のところをきちんと検証していく必要があるのかなと。また玉里の場合には1年目だから、そこまではなかなか見られないかと思いますが、こういう部分については、やはり目的として、そういうものをなくしていくんだというようなことで始まったことも、この問題はあるのかなというふうに考えていますので、その辺のところは、検証していく必要があるというふうに思います。以上です。

○山口教育委員

・今、聞いていまして狩谷委員、鶴町委員から「中1ギャップ」の話が出ましたけれども、それぞれの地域で説明会があったわけですが、私は当時、教育委員でもありませんし、ただ1回、地元の人間として玉里東小学校でその説明会に来られたときに私も参加しました。その時、確かに耳に残っているのは「中1ギャップ」の話で、これをかなり強く話していたように思います。

・その後、皆藤先生なんかもよく「中1ギャップ」という言葉を使って話されていましたので、今、鶴町さんからも話が出ましたけれども、ただ、やっと1年目スタートして結論を出すのにはまだまだ課題が見つかったというのが本当の話で、なかなか結論的な部分には簡単にいくわけもないし、ただ、ギャップの事をかなりメインにして説明していたのかなという気がします。
・狩谷さんが言うように、どっちなのかという話になると、私はギャップを無くすんだよというのが常に耳に入って今まで来ましたけれども、ちょっとここから話が外れるかもしれませんが、英語の教育、どこ行っても外国の方が教壇に立っていますが、文法は別の先生でもよいのでしょうが、発音を聞くための先生なのかなと思って見ていますけれども、今からこれからの時代に必要なのはよくわかるし、これからも同じように続けてもらいたいのですが、一方では、その前から私も常に思っていたことは、国語の教育をもうちょっと、英語と同じようにとは言いませんが、我々が使う言葉なり、文章を確認しても、今は手帳を持って歩く人もいない、携帯電話にメモしてしまうなど、非常に、私自身も原稿用紙に向かって文章を書くことはもう全くやったことないですし、パソコンで文章を書いているだけで、漢字が書けなくなっても出てくるわけなので、何となく選ぶだけですよね。本当にこのままいったら、漢字も書けない日本人がこの後いっぱい出てきてしまって、それはパソコンと携帯で何とかなるでしょうけれども、もう現実に本を読むとか、そんなことを考えたときに、今のような、国語の勉強で済むのかなと。
・中村さんは何かで書いたかと思いますが、果たして英語が本当に必要として英語を使い、駆使していける人間が何%いるのかなという話になると、本当に国語に力を入れてもいいのではないかなと思っています。亡くなった区長も、やはり日本語が大事だと言っていましたけれども、ちょっと一貫教育とは離れますが、せっかくの機会ですので、話をさせていただきました。
〇柴田教育委員
・義務教育学校と近接する併設型、それぞれ学校は別だけれども連携をとってやっていく小中一貫教育という3つのパターンで、これまできている状態ですけれども、この報告を拝見すると、やはり連携型は学校自体が物理的に離れているとなると、小中一貫で他の学校で取り組んでいるようなことが難しい部分が多くあると思います。そう考えると、連携型が小中一貫教育に対して他の学校に比べて一歩も二歩も遅れているのではないかという印象を受けました。
・将来的に、義務教育学校や併設型に持っていくのは、またいろいろ課題が出てくるかと思いますし、どちらのスタイルの方が上手くいくのか、今後の課題を解決していくためには連携型だと難しい部分があるとするならば、将来的にはそれをどうしていくのかを判断していくことも必要になると思いました。いろいろ課題は多くあり、難しい部分があるかと思いますが、小中一貫教育だと謳うならば、そこの部分も今後、解決していかなければならないと思います。
〇市長
・様々な意見が出ました。ありがとうございました。その前に、私のまとめの前に、事務局から補足があれば、先ほど茨城キリスト教大学との連携ということで、英語の交流など茨城キリスト教大学との連携協定を結んでいるので、その辺の話や、保・幼・小連携。竹原小学校で今年から初めて「よつば幼稚園」と小学校が一緒になって、勉強が始まったところでございますので、その辺の流れがどのようになっているのか、話をしていただいてからまとめていきたいと思いますので、教育部長から小中一貫に関する補足と幼小一貫に関する補足をお願いします。
〇教育部長
・ただいま、市長から補足ということで、まず小中一貫教育につきましては、委員の皆様方からお話をいただいているとおり、現在、小美玉市では「小中一貫教育基本方針」を策定しておりますが、やはり実感としては、その方針止まりといった印象は否めないのかなと私も感じているところでございます。具体的に言えば、やはり市民の方々が、小美玉市が小中一貫教育をやっているということをよくわかっていない、浸透していないというのも事実かと思います。
・特に、玉里学園と小川北義務教育学校については「義務教育学校イコール小中一貫」というところで、非常に結びつきやすいのですが、小川南小・中の隣接型、さらには美野里地区の分散型、ここについては、小美玉市が小中一貫教育をやっているということを知っている保護者がどれだけいるのかと考えた場合は、かなりのパーセンテージの低さで、小中一貫教育をやっているという実感はないのではないか思っております。
・先ほど市長から話がありましたとおり、現在考えている内容といたしましては、来年度以降、小中一貫推進委員会に茨城キリスト教大学と包括協定を結んでいる関係から専門家の先生を

お招きして、助言、指導を仰ぎながら、さらには、中村委員のご発言とリンクしていますが、やはり実効性のある具体的な計画を持ち合わせていないがために、なかなか行動に結びついてないという現実があると思っておりますので、できれば小中一貫教育に関しては、これはまだ指導係と正確に詰めたわけではございませんし、教育長ともお話をしているところではございませんが、このことについては、市役所で言う「実施計画」のようなものをしっかりと策定して、本当に必要なところに必要な予算を配分していきながら、特徴を出していくというようなことも一つの手法ではないかと考えておりますので、小中一貫教育に関する実施計画において、先ほど柴田委員からお話がありましたとおり、分散型の小中一貫教育については、様々なハンディがあるというのは事実かと思いますので、そうした中であっても、アイディアや知恵を出しながら、どんな実施計画ができるのか。実施計画は必要だと考えておりますので、そういったものの策定を働きかけながら、より小中一貫教育については具体的かつ実効性のある取組につなげてまいりたいと感じているところでございます。

・さらに、幼小連携につきましては、今年度は指導係において幼小接続プログラムを策定してございます。この幼小接続プログラムというのは、先ほどの実施計画ではないですけれども、具体的な方策として示される予定でございます。そういったものができ上がると、より先生方も、具体的な実効性のあるものとして、また自分ごととして落とし込むことができます。また、私立幼稚園や認定子ども園、保育所にも、そういったノウハウをうまく共有し、つなげていけるかと思っておりますので、教育委員会事務局全部で力を合わせて、本日いただいた皆様のご意見を少しでも実現できるように努めて参りたいと思います。以上でございます。

〇市長

・はい。ありがとうございました。教育長、小学校の高学年で教科別に教える教科担任制の推進について、国の方でも示していますけれども、これについてちょっとお話があれば、5・6年生の英語や算数、理科などの今後の見通しについてお願いします。

〇羽鳥教育長

・市独自に、この小中一貫教育をどう取り組むのかということに関連しますが、私は、玉里学園をモデルにして考えたときに、大きく3つあると思います。一つは、市長がおっしゃった教科担任制、これは義務教育学校では、同一校舎で一体型ですから、やりようではできますけれども、隣接型でも、もっともっと今以上に乗り入れ授業であるとか、分散型の離れたところでも、やりようによっては、そういったものを取り入れられるのではないかと思います。

・特に県の方では、理科、算数、英語、体育と、教科を限定しておりますので、その教科を中心に、なかなか教員がいないという現実はありますけれども、そのあたりが推進の手口になるのかなと。

・それから、英語教育の話がありましたけれども、実際モデル校の玉里学園で見ると、5・6年生はもちろん教科担任制を導入してやっておりますが、1年生から4年生は外国語活動として、ここに英語の免許を持ったその免許保有者が実際に指導しているということですので、もちろん担任とＴＴの形だと思いますが、これもやっぱりやりようだと思います。ですから、本市独自に考えたときに、この教科担任制、あるいは英語教育は充実させていきたいと思いますし、同時に、先ほど茨城キリスト教大学との連携の話がありましたが、ここともも英語に限らず、もっともっと大学生と子どもたちを交流させて、また大学の講師の先生に、小中学校の現場をよく見てもらって、いろいろご指導いただきたいと思っています。以上です。

〇市長

・ありがとうございました。それでは皆さんからご意見いただきました。今コロナ禍でもありますので、調整が難しいところだと思います。いろいろと小中一貫で1年生から9年生までの中で交流したり、授業をしたり、また体育を通した中での交流、またそういう場面をつくっていくというのは非常に道半ばであり、難しいところもあると思いますが、これから課題を整理していただいて、やはりしっかりと小中一貫教育推進委員会と校長会、教育委員会が、それぞれ意見を交わしていただいて、一人ひとりが小中一貫教育に対する意識の変化を促していただきたいと思います。

・また、市民が小中一貫については知らないというようなお話もあったわけであります。美野里地区については特にそういう環境になっていないところもあるということでございますので、しっかりこういうところも子どもたちの教育でございますので、保護者等々に連絡をしながら、小中一貫に向けてはこういう小学校と中学校が、地域の活動、また、コミュニティ・スクールも

あることでございますので、そういう中で、人材を掘り起こしていただいて、地域の協力を促して、積極的に情報発信をしていくというのは大事かなと感じたところでございます。

・また、特色ある教育の中で、お話がございました、英語で1番になるなど、そういう具体的な目標・数字をもって、そして結果を出すと。それには、やはり、必要なところには英語の指導助手ということで、そういう先生を雇ってしっかり対応していかなければ、結果として進んでいかないというようなお話もあったわけでありますので、しっかりとその辺は、行政として教育委員会とお話をして、教育長を中心にどのような先生を、どのような場面で生かしていくのかということになると思いますので、現場は教育長の指導のもとに進めていただければ大変ありがたいと思うところでございますので、指導課も小美玉が1番になるのにはどうすればよいのか、どういう対応をすればよいのか、どういう課題を整理していけばよいのかと、その辺も課を中心としてお話し合いをしていただいて、我々はそのような要求や対応に対しましては、お答えをしていくということになると思いますので、お互いに協力体制を整えて、子どもたちのよりよい環境を作って、特色を十二分に出せるような教育環境を作っていきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

・教育環境と一言で言いますが、どんどん変化していく中で、よりよい子供たちのためにどうすればよいのかを第一に考えながら、引き続き、皆さまのご支援をいただき、またご協力をいただきながら進めたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。それでは、協議事項は以上となります。進行を司会に戻したいと思いますので、ご協力ありがとうございました。

〇司会

・はい。ありがとうございました。それでは、以上をもちまして令和3年度第1回小美玉市総合教育会議を閉会させていただきます。長時間にわたりご協議をいただきまして、ありがとうございました。お疲れ様でした。